

質 問

たたらの町をもっと広く 情報発信すべきでは

町長 国内向け「クール奥出雲」を
検討していく

藤原和範 議員



問 国の重要文化的景観である「たたら」文化を、更に情報発信し、滞在型観光の推進など町の活性化に生かしていくべきと考える。「たたら製鉄」の日本遺産認定に向けての取り組み状況は、

答 引き続き、鉄の道文化圏推進協議会の構成市町である雲南市、安来市と共同で申請することとし、第二回目で認定を受けられるよう鋭意準備を進めている。

問 国では「クールジャパン戦略」を展開し、歴史文化など日本の特色ある資源を活かして海外へ発信し、観光等に結び付けていこうとしている。そこで、この戦略になぞらえて、国内向け「ク

ール奥出雲」と銘打って、たたら製鉄を中心に仁多米や温泉、神話などの地域資源をストーリーに、魅力ある「たたら」の町・奥出雲町をもっと広く情報発信し、滞在型観光推進や地域振興へ強化の考えは、

答 本町には、素晴らしい「自然・歴史・文化」また、算盤で培われた匠の技もあり、県内外から多くの方々に評価をいただいている。国の施策である「クールジャパン」のように海外へ向けては発信していない現状であり、外国からの受け入れ体制が十分に整備されていない。今後は、国内向け「クール奥出雲」の事業展開について検討していく考えである。また、地域資源を活かした戦略の一つとして、二年前より「たたら」を中心にした滞在型観光ツアーを売り出している。これからも交流人口の拡大に努めたい。

問 観光スポットへ導くサイン看板等を設置し、

観光ルート化を図るべき、

答 情報サイトやパンフレット等で観光ルートやモデルコースを紹介しているが、案内看板は整備されていない。新たな観光ルートもきめ細かくする。

問 尾道松江線が全線開通したが、本町への交通量は若干減少し、おろちループ経由の国道314号への車の流れも少なくなっている。レストラン三國も休店されている状況にあって、道の駅一帯の活性化について、今一度検討すべきでは、

答 十分な検討が必要と考える。

問 道の駅奥出雲おろちループの位置づけと役割について、

答 おろちループは、県境に位置し、奥出雲町の玄関口となる大切な場所である。また、観光地としても日本最大級の二重ループ橋、周辺の美しい自然環境、スイッチバックやトロッコ列車、更にオロチ像や鉄の彫刻美術館などがあり、観光工

アの中心にある道の駅としても重要なと認識している。

問 南の玄関口として、一層の拠点化を図り、国道314号沿いの活性化のため、今後どのような利用拡大対策を考えているのか、

答 本年度から県事業により、トイレ棟、屋根付き駐車場などの施設整備を、また、町が事業主体で望雲台の改修への設計来年度に工事着手を予定している。施設の運営等については、関係者や道の駅の活性化に携わった専門家などの意見も参考に、利用者拡大に努めていく。また、観光客だけでなく地元の方にも本当に愛される道の駅を目指したい。



施設一帯の活性化が待たれる
「道の駅奥出雲おろちループ」